

《月々の手入れ》

【10月】

金沢ばら会
日本ばら会
上野耕司

神無月となり、中下旬からは秋ばらの開花が始まります。早咲き・遅咲きがありますが、自分の庭で咲いた過去のデータから開花日数を設定して剪定し、適正な手入れによって育った秋のばらは、春とはまた一味違った、色つや、きりっとしまった素晴らしい花を楽しむことができます。

中下旬から開催される展示会では、自分の庭で咲いた花を持ち寄って、ばら談義をしたり、ベテランからの情報やアドバイスを得ることによって、ますますばら栽培の技術向上や知識を深めることができる絶好の機会です。

10月の主な手入れ

1. 灌水
2. 消毒
3. 施肥
4. 芽掻き
5. 花の仕上げ

1. 灌水

ばらの新芽が伸びる段階での花芽分化期については、4月の手入れで説明した通りです。

剪定から、新芽が芽吹き、長さが5 cm以上、本葉(5枚葉)が2, 3枚以上展開し始めたら、花芽分化期が過ぎていきます。地植えではこの時期から灌水を十分に始めます。鉢植えも灌水量を多めにします。

HTの樹高の比較的低い品種でステム(花枝)を長く(70 cm位)にするには、この時期から頻繁に灌水の量を多めに灌水すると茎の葉間が伸びて、長いステムができます。(ノービー、卑弥呼、コロラマ、ホット神崎、レッドクリフ、みつえなど)

逆に、ステムの長さが灌水と関係なく長くなる品種は、頻繁に灌水するとかえって花首が長くなりすぎて5枚葉が花のかなり下方にしか付かなくなり、一輪花の規定である花首の下からフラスコの口までの50 cm以内に5枚葉が3個以上つかなくなり、3枚葉までの葉が付く花首が長くなり、花と葉のバランスが悪くなるものや、葉が巨大化し過ぎる品種

もあります。

開花2週間前、蕾から色(糸目)が見え始めるころから地植えでは灌水を中止するか少なめにすると、きりっと締まった良い花が得られます。

秋のHTばらは、特に春とは違う品種かと思われるほど美しく咲くばらが多いのも特徴です。その美しさを引き出すために、灌水には注意深く実施したいものです。

2. 消毒

10月に入り、10日ごろになると花枝(ステム)も伸び、葉も固まり蕾が日に日に大きくなって、縦に色(糸目)が見え始めるころ、いよいよ仕上げ時期に入っています。このころには、スリップスの予防薬を規定通りの希釈倍率で必ず散布しておきます。一般的なオルトランやスミチオンでも効きますが、長年使用して効かなくなった場合には、スピノエース、ベストガード、ダントツ、ディアナなど薬剤を変えて対応します。

スリップスへの対応を怠ると、開花してから花卉にシミのような汚れが出て、鑑賞に不向きとなります。

開花してからの消毒では花卉の奥深くに逃げ込み効果がなくなると、花卉に薬剤がかかるとシミが付く薬害となるので蕾のうちに予防しておきます。

毎日見回り、病虫害の兆候を見つけたら、即、予防・治療剤を散布します。うどん粉病、黒星病などの予防・治療剤と、殺虫剤は秋に多い害虫専用に薬剤を選び散布します。(オオタバコガ、ヨトウムシ、スリップス類等)、これらの薬剤は8月の殺虫剤・殺菌剤一覧表を参考にしてください。

3. 施肥

花の咲く月である10月は追肥主義でも地植・鉢植え共に肥料は控えます。芽が伸びないからと追肥も禁物です。開花直前の活性剤散布や葉面散布もかえって失敗を招き、徒労に終わるでしょう。

4. 芽掻き

コンテスト派のHTは春と同様に、9月中下旬あたりから新芽の芽掻きが必要です。主幹枝の老若によって、伸ばすステム(花枝)を決めます。1主幹1本が多くて、勢いの強いシュート枝からはステムの太さを10mm以上にならないよう2本ないし稀に3本伸ばし、勢力を分散しますが、花枝が長くとれる品種に限定されます。

房咲き系のFLやアンティーク系では芽掻きは、展示会出品目的は多少芽掻きしますが、それ以外は芽掻きしなくても良い。

HT、秋の芽搔き例(9月22日実施、9月5日剪定)

Before



After



5. 花の仕上げ

私たちは、秋ばらをうまく咲かせて初めてばらの良さを味わうことができます。1年間の苦勞の総仕上げと思って、最後まで手を抜かず、しっかりと世話をすれば、きっとばらは美しい花で応えてくれるはずです。「秋のばらは人が咲かせる」と言われる由縁です。

開花前までに病害虫に対する対策は消毒によってしっかり対応しておきます。せっかく咲いた花も病害虫で侵された花や葉っぱでは何にもなりません。苦勞が水の泡です。

HTでコンテストや展示会に出品する場合や、切り花として人にさしあげる場合も、丁寧に扱い花を仕上げましょう。

春と同様、HTでは副蕾取り、FLでは逆に主蕾を取り、房咲きを揃えて咲かせます。

また、曲がったステムは添え棒を当てたり支柱をして真っすぐに矯正しましょう。

丹精込めてせかっく育てたばらも、最後の開花前に雨や台風で無残な姿にならないよう、最低限の防御を行いましょう。

その他、採花や水揚げの仕方、花の運搬方法などは、「5月の手入れ」を参考にしてください。

HT栽培のすすめ

HT(ハブリッド・ティ)はばらの品種の中では最もポピュラーで品種の多いばらです。展示会のコンテストでは最も栽培技術が問われる品種です。ですから、古くからその良否を競うコンテストは今でも盛大に春と秋行われています。

近年の流行では、花型に丸みを帯びたカップ咲きやロゼット咲きと言った、花卉が多く、香りもある、色合いもアンティークな雰囲気の花が流行となり、HTは少々影が薄い状況となっています。

最近は更に改良が進み、完全四季咲き性も現れ、ますます隆盛を増しています。

しかし中にはシュラブと呼ばれ、枝が長くしだれる性質で、一季咲き性のつるばらに近いなど、完全四季咲き性ではなく、秋まで楽しむことが少ないばらが多く、これらのバラは「返り咲き」の性質を持ち、秋剪定しても秋には咲かないばらが多い。

その点、HTは完全四季咲き性で、春も秋もよく咲き、しかも秋の方が春ばらより趣深く咲く品種も多々あります。

秋のばらを完全に楽しむことができるのは、やはりHTです。

シーズン中の手入れ、剪定やシュートの処理など、ばらの基本中の基本がすべて詰まっている品種で、秋もよく咲くHTの栽培をお勧めいたします。